

顧客からの影響

奥野製薬工業（大阪）は、主力の表面処理部門と無機材料、食品の3部門で事業展開している。国連の持続可能な開発目標（SDGs）に取り組み、かけは重要顧客であるメッキ加工の有力メーカーがいち早く取り組んでいることを知ったこと。これに刺激を受け、2020年9月に国内唯一の「関西SDGプラットフォーム」に参加した。「顧客の動きを知らなかったら立ち遅れていただろう」（西城信吾総合技術研究所企画開発部長）と振り返る。

奥野製薬工業

本格的に取り組んで2年弱だが、新規の設備投資はSDGsを意識した内容になっている。2期に分けて建設中の新工場は屋上に太陽光パネルを取り付け、窓ガラスにも太陽光モジュールを採用し、年間1万5000トンの能力を持つ。

日本を変える 17Goals

▽17△

設備投資、SDGsを意識

電炉材を採用
また、メッキ薬など

表面処理製品は生産工程で大量の水を消費する責任のため、高圧洗浄機を導入して排水を85%削減する。さらに「つづく」に効果は大きい。また、基礎部分には再生砕石を利用し、ボイラも高燃焼効率タイプを採用して損失エネルギーを抑制する。排出「見える化」



さらに「つづく」に効果は大きい。また、基礎部分には再生砕石を利用し、ボイラも高燃焼効率タイプを採用して損失エネルギーを抑制する。排出「見える化」



排出量の算出や削減を「見える化」するツールを新たに導入する計画も進めている。

LMES（製造実行システム）を導入して自動化を進める。このほど完成した品質保証センターの1階部分の社員食堂はカフェ風の作りで、社員がくつろげるだけでなく、将来は地域に開放することも考えている。

排出「見える化」

SDGsを推進してCO2削減の取り組みを強化しているが、「求

働きがいにも配慮し強化しているが、「求められるのは個々の製品がどれほどCO2排出抑制に貢献しているかを「見える化」すること」

CO2削減に向けた取り組みの一環で新工場ではなく高性能の電炉材を採用した。全体で1600トンの鋼材を使用するだけ

カフェテリア風の社員食堂は地域への開放も検討中建設中の新工場はSDGsを強く意識